

第6学年 道徳科学習指導案

〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
指導者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 主題名 あなたの命は宝物
- 2 ねらい 主人公の気持ちや、主人公の家族の気持ちを考えることを通して、様々な側面から生命の尊さについての考えを深め、生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重しようとする実践意欲を高める。
- 教材名 「わたしって何」
(出典：「彩の国の道徳」(高学年)『夢にむかって』県教委)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校5学年及び6学年の指導の観点は、「生命が多く生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」である。

この時期の児童は、物事を様々な視点から考えることも可能である。指導に当たっては、生命の尊さについて様々な側面から考えることを通して、命のかけがえのなさや、命は軽々しく扱われてはならないものであること、命が人間の力を超えた尊厳を持っていることなど生命に対する考えを深めることが大切となる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、4年生の保健「育ちゆくわたしのからだ」で自分たちの体には生命を生み出すための仕組みが備わっていることを学んだ。また、5年生の理科「人のたんじょう」の学習で、人の赤ちゃんが、お母さんのおなかの中でどのように育って生まれてくるのかを知った。児童は、命の学習に強い興味をもって意欲的に学んでいた。また、学習を通して命の大切さや生命誕生の神秘については理解していた。道徳では、5年生で「母とながめた一番星」などの資料を使って、命の大切さについて話し合ってきた。また、6年生では、「その思いを受けついで」で生命のかけがえのなさやつながりについて考えた。児童は、生命の尊さについて知識としては理解できている。しかし、軽々しく「死ぬ」や「死ぬ」という言葉を使ってしまうなど、理解と行動の差がみられる。また、客観的に自他を見つめることができるようになる反面、自分や他人、他人同士を比べて優劣をつけるような傾向もみられる。

そこで、「生命の尊さ」について多角的に考えることを通して、生命がもつ侵し難い尊さを自覚させ、生命を尊重していこうとする実践意欲を高めたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、悪口の書かれた手紙を見て自分の存在を見失った主人公の幸恵が、お母さんの言葉をきいて自分の命の尊さを再認識する話である。本学級の児童の実態を受け、心が傷つき自分の存在を見失った時の幸恵の苦しさや悲しさをじっくりと考えさせるとともに、母親とのやり取りから自分の命がかけがえのないものであることを実感し暗闇から抜け出していく幸恵の心の変化を考えさせたい。

①「おまえは、この世からされ！」というギャグについて友達と話しているときの幸恵はどんな気持ちだったか。

ここでは、命に関わる言葉を軽い気持ちで使ってしまったときの動機を考えさせる。

②一人で部屋にこもっていたときの幸恵はどんなことを考えたか。

ここでは、自分の存在を見失った幸恵の悲しみや苦しさに寄り添わせる。

③「幸恵のいない世の中なんて考えられないわ」と言ったときのお母さんはどんな気持ちだったか。

ここでは、お母さん側からの気持ちも考えることにより、生命の尊さについて多角的に考えさせる。

④「幸恵は家族の宝物よ」というお母さんの言葉をきいたときの幸恵はどんな気持ちだったか。

ここでは、幸恵の命について多角的に考えることで命の大切さがより増すことを考えさせる。

以上の理由から本主題を設定した。

4 学校研究課題との関わり

研究主題

豊かな心を持ち、よりよい生き方を求める児童の育成
～「考え、議論する道徳」の授業を通して～

○目指す児童像について

- ①人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を、自分のこととして考えることのできる子
- ②他者との交流を通して、物事を多面的・多角的に捉えることのできる子
- ③自分の特徴を知り、伸ばしたい自己を見つけ、それを実現させていこうとする思いのある子

【目指す子どもの姿】

〈低学年〉	〈中学年〉	〈高学年〉
①道徳的価値は、大切なものであると理解できる。 ②自分の考えをもちつつ、友だちの話を聞くことができる。 ③自分ができていることや、できていないことを振り返ることができる。	①道徳的価値に対する考え方は、様々であることを理解できる。 ②友だちの考えと自分の考えを比べて聞くことができる。 ③自分の体験や経験を振り返り、よりよい自分になろうという思いをもつことができる。	①道徳的価値は、大切なものであるが、実現することは難しい時もあることを理解できる。 ②多くの考えを聞き、その考えに対する自分の納得できる答えを見つけることができる。 ③自己の生き方についての考えを深め、道徳的価値を実現させようとするすることができる。

○仮説とそれに対する手立て

仮説1

児童の「主体的な学び」を促す授業を行えば、道徳的価値を自分のこととして考えられるであろう。

<手立て>

(1) 道徳的価値を自分のこととして捉えさせる授業展開の工夫

- ・授業の展開の最後に保護者からの手紙を読ませることで、自他の命のかけがえのなさを自覚させ、生命を尊重していこうとする実践意欲を高める。

(2) 主体的に考えさせるための問題提示の工夫

- ・課題を明確に示し、児童が本時の価値を自分のこととして考えられるようにする。

仮説2

他者との交流方法を工夫すれば、議論が深まり物事を多面的・多角的に捉えることができるであろう。

<手立て>

議論を深め、物事を多面的・多角的に捉えるための交流方法の工夫

- ・主人公とともに、家族（お母さん）の気持ちも考えさせることによって、生命のかけがえのなさについて多角的な考えを引き出す。

仮説3

指導と評価の一体化を図り、計画的に評価を積み重ねていけば、児童は自己理解を深め、道徳的価値を実践しようとする意欲が高まるであろう。

<手立て>

(1) 児童が自己の良さや課題を発見し、実践する意欲を引き出すワークシートの工夫

- ・自己を振り返る場面でこれまでの自分の姿（過去）、今日の授業を通して考えたこと（現在）、今後の生き方についての考え（未来）を柱にして書くことで、児童が自分の課題を主体的に見出していけるようにする。

(2) 指導と評価の一体化を図るための課題提示の工夫

- ・指導観に基づき課題を定め、児童の変容から授業のあり方を振り返る。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	<p>1 誕生直後の赤ちゃんの写真を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> これは何だと思いませんか。これは生まれた直後の赤ちゃんの写真です。今日は、「命」について考えていきます。みんなは命を大切にしていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 大切にしている。 大切だとは思っているができていない。 「死ぬ」とか簡単に言っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点☆評価の視点 <p><仮説1 手立て(2)> <仮説3 手立て(2)></p>
	<p>命の大切さについて考えよう</p>		
展開	<p>2 教材の読み聞かせを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日は、主人公の「幸恵」や周りの人の気持ちを考えながら聞いてください。 <p>3 内容について話し合う。</p> <p>(1)「おまえは、この世からされ！」というギャグについて友達と話しているときの幸恵はどんな気持ちだっただろう。</p> <p>(2)一人で部屋にこもっていたときの幸恵はどんなことを考えただろう。</p> <p>(3)「幸恵のいない世の中なんて考えられないわ」と言ったときのお母さんの気持ちを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい。 ・ギャグだから。 ・誰かに向かって言っているわけではない。 ・悪口ではない。 ・本当はいけないかもしれない。 ・ひどい。 ・悲しい。 ・読まなければよかった。 ・まさか自分に使われるとは。 ・何かしてしまったのかな。 ・嫌われているのだろうか。 ・学校に行きたくない。 ・この世からいなくなった方がいいのかも。 ・いる意味あるのかな ・死にたい。 ・何よりも大切。 ・絶対に失いたくない。 ・愛している。 ・幸恵がいるから幸せ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は主人公だけでなく、周囲の人の気持ちも考えることを伝える。 ・命に関わる言葉を軽い気持ちで使ってしまったっている動機を確認する。 ・自分の存在を見失った幸恵の悲しみや苦しさに寄り添わせる。 ・幸恵の気持ちとともに、お母さん側からの気持ちも考えることにより、生命の尊さについて多角的な考えを引き出す。 <p><仮説2 手立て></p>
	<p>(4)「幸恵は家族の宝物よ」というお母さんの言葉をきいたときの幸恵の気持ちを考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい。 ・安心した。 ・お母さんにとっては本当に大切なものなんだ。 ・命のことを軽く考えてはいけない。 ・友達の命も大切にしよう。 ・死ねとかの言葉を使うのはやめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ幸恵の命でも多角的に考えることで、より命の大切さが増すことを感じさせる。 ☆主人公の命の尊さについて、お母さん側からも考えることを通して、命の尊さについて自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりしている。

	<p>4 保護者からの手紙を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 皆さんのうちの方から、皆さんへの手紙を書いてもらいました。うちの方の気持ちを考えながら、それぞれ読んでみましょう。 <p>5 今日の学習で感じたことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> どうでしたか。お隣の子も前後の子も、自分と同じような気持ちの保護者の方がいます。これまでの自分の姿をふりかえるとともに、今日の授業を通して考えたことを書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の命ってこんなに大切に思われていたんだ。 命って何にも変えられないんだな。 命の価値ってみんな同じなんだ。 友達の命も大切にしていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの手紙を読ませることで、自他の命のかけがえのなさを自覚させ、生命を尊重するというとする実践意欲を高める。 <p><仮説1 手立て(1)></p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの自分の姿(過去)、今日の授業を通して考えたこと(現在)、今後の生き方についての考え(未来)を柱にして書くことで、児童が自分の課題を主体的に見出していけるようにする。 <p><仮説3 手立て(1)></p> <p>☆生命の尊さについて自分との関わりで考え、生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重していこうとする思いをもつことができたか。(記述、観察)</p>
<p>終末</p>	<p>6 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さというものは、無償のものであることを伝えるエピソードを話す。

6 他の教育活動との関連

- 日々の生活や学習活動の中で、自他の命を尊重していこうとする態度が表れた場面を見つけ、賞賛する。

7 評価の視点

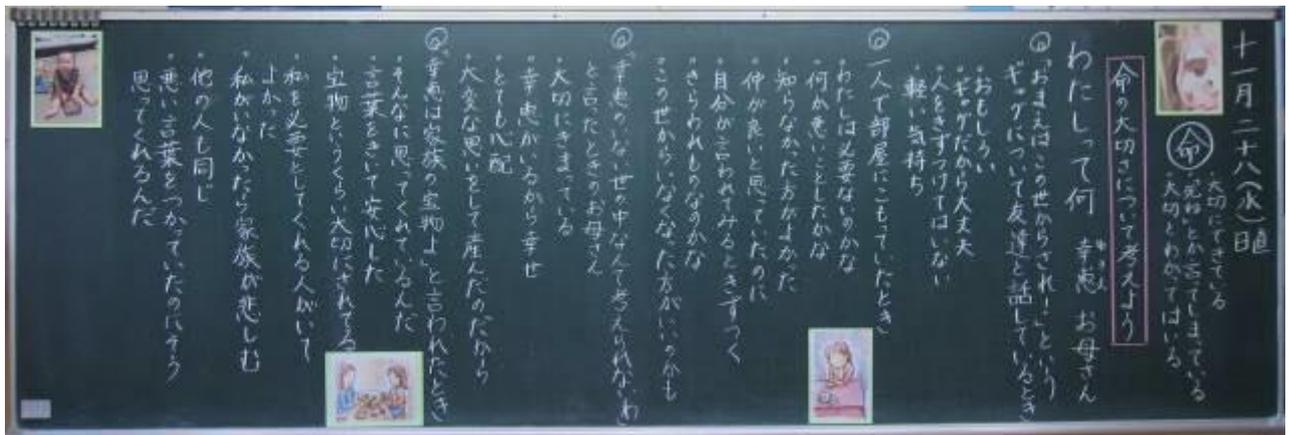
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- 主人公の命の尊さについて、お母さん側からも考えることを通して、命の尊さについて自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで考えている】

- 生命の尊さについて自分との関わりで考えている。

8 板書計画



年 組 番 名前

月 日 ()

◇今日の道徳で、考えること

(わたしって何)



◇今日の課題について、これまでの自分を振り返りましょう。
また、今日の学習で分かったことや考えたことについて書き
ましょう。